**令和６年度「グループ研究助成」申請書**

令和６年　　月　　日

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 研究代表者 | 所属学系 | 　 | 氏　名 |  | 職　名 |  |
| 役割 |  | 所属学会\*  |  |
| 研究課題名 |  |
| 応募額 | 千円（応募上限額：1,000千円） |
| 研 究 組 織代表者以外のメンバーを記入 | □ メンバー全員の承諾を得ている。　（確認後、チェックを入れる） |
| 氏 名 | 所属学系 | 役 割 | 所属学会\* |
|  |  |  |   |
|  |  |  |   |
|  |  |  |   |
|  |  |  |   |
|  |  |  |   |
| 過去に受けた学内競争的研究資金の概要と関連業績の関係 |
|  |
| 研究の目的・概要①本研究に関連する国内外の研究動向及び位置づけ、着想に至った経緯、アピールポイント等②期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか　③当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義 |
| 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　[裏面あり] |

\*本研究課題、各役割に関連する主要な所属学会（またはそのsociety）２つを構成メンバーごとに記入し、所属学会（またはそのsociety）がメンバー間において完全には一致していないことを確認ください。

|  |
| --- |
| 研究計画・方法①研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法　　（研究遂行体制・準備状況、実験や調査の目的・手法・内容等） |
|  |
| 異分野間複数教員による共同研究である必要性及び期待される発展性 |
|  |
| 研究経費の妥当性・必要性①「研究計画・方法」欄で述べた研究規模、準備状況等を踏まえ、必要とする経費の額と積算根拠を記入すること。②既存設備の活用や新規購入の必要性など、必要とする経費の妥当性・必要性について記述すること。 |
| 研究経費内訳 | 費目 | 金額（千円） | 積算根拠 |
| 備品費 |  |  |
| 書籍費 |  |  |
| 消耗品費 |  |  |
| 旅費 |  |  |
| 謝金等 |  |  |
| その他 |  |  |
| 合計 |  | ※応募額と一致する |
| （経費の妥当性・必要性） |
| 研究遂行能力1. 必要に応じて参照するため、教育研究業績管理システムに研究業績を登録すること。
 |

※日本語で作成し、２ページ（両面１枚）にまとめてください。